

福井県民の将来ビジョン 分野別意見交換会 意見概要

(林業)

- 福井県産材について、ブランド化できるか。現実的には外材も含めて、県産材、地域材を議論し産業と結び付けていくかが重要
- コミュニティ林業では境界の確定が必要
- 間伐材では民間事業体も含めて生産量を上げていかなければならない。今後、二次間伐材が市場に出回る時期にきている。主伐への対応も森林組合だけでは出来ない。
- 大工場の進出で山が土地付きで買われる場合も出てくる。川上でルールを作り法で規制されている以上の指導を行っていく必要がある。流通面についてのコーディネーターが必要となってくる。
- 良材による住宅建材の供給が少なくなっている。
- 製材工場が小さくなりすぎていてストック力が弱い。「製品が動かない」→「製品を作らない」→「製材がますます動かない」等の悪循環になっている。
- 良材を使用した和室を造った場合に補助金を出してはどうか。
- ブランド材に強度、乾燥（水分含量）を表示することが重要
- 後継者問題として、大工を育てきれていない。50坪の住宅で「従来の工法」と「プレカット工法」では建前するまでの製材で1棟当たり、60万円～70万円の差が出てくる。
- 森林を所有する意識の低下が課題。県民に山や林業に対して関心を持ってもらえるようアピールしていく必要がある。
- コミュニティ林業については、山林所有者の足並みがそろわないことが課題
- 林業公社に関して、森林管理を放棄することは絶対にできない。県の公社、公団の造林は山の奥地で個人では植林が困難なところに植林している。林道等の基盤整備ができていないところも多い。集落近くの軽車道（旧来の2.5m林道）は通れないところが多いので特に整備を進めてほしい。
- 良質材が必要とされていない現状の中で、ブランド化等の差別化を図っても、手間をかけた分だけの還元がないように思われる。
- 鳥獣害対策の山ぎわの網は林業者にとっては、山に入れたい、山から木を切り出す上で、不都合を生じている。
- しいたけ栽培については、零細家業が多いが、需要は多く、まだまだ伸びる可能性がある。
- しいたけの原木は1本250円以上の単価で福島県から購入しているため採算が厳しい。福井県の原木を使うためにも、原木用の広葉樹を植えてほしい。流通は富山県産等がキロ単位で販売しているが、福井県産は100グラム単位で流通させたい。

- 現状として、「材料を仕入れても売れない」、「価格を下げても売れない」ことから製材屋はどうしていいのかわからなくなっている。
- 今のプレハブでは県産材を使わなくても建てられてしまうので、県産材を使って家を建てることに力を入れて欲しい。
- 10年後を考えると人づくりが重要。子どもたちが「和の文化」に親しむ教育を、10年を見通して今から実施してほしい。
- 三味線、華道、茶道など和の分化の振興から和室がある住宅が建てられる。このような文化・教養を身に付ける人づくりが必要。ものは10年後に飛躍的に発展しているが、人の育成については今の施策が将来を見通せるのではないか。
- 在来の工法で建築できる大工を育成しておくことも重要
- ものの価値は変化してきている。水や環境に価値が見出されている。この水や環境の源泉は山にあることに気付いておくことも必要